



JEG ニュースレター 138号

www.jegschweiz.com

2013年10月20日発行

小さな証

両親の救いのために長年祈り続けてこられたトムセン千香子姉の夏の里帰り中に起きた驚くべき出来事は、。

後任牧師

スイスJEGにマイヤー・マルチン牧師が与えられました。我々の熱き祈りにお応え下さった主に感謝。

第一回JEG婦人会

中央スイス・ベツキスにて、婦人会が持たれ、8人の姉妹が聖書の学びの時を持ちました。

米国「集い」レポート

スイス教会NLの愛読者でライター野村和子姉が、米国での「キリスト者の集い」をレポートして下さいました。



小さな祈り

私たちの願うところ、
思うところのすべてを超えて
豊かに施すことのできる神に、
栄光が世々にわたって、
とこしえまでもありますように。

愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。 エペソ 3:17-19



ドイツ人宣教師のご息子として日本で生まれ育ったマイヤー・マルチン牧師は、日本人の心をよく理解しておられ、スイスJEGを牧会される決心をして下さいました。

神様からの今年最大のJEGへの贈り物です。この働きを支えて下さる奥様のルツ先生にも感謝致します。

ちいさな証

神には、出来ない事は、ありません

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会会員



聖書にイエス様が盲人の目を癒すお話が、何カ所か出てきます。それは、聖書のお話でとどまらず、今もイエス様は、生きて働き、私たちの体も心も癒し続けておられるということを、体験させて下さいました。

その一つとして母の目の事を分かち合いたいと思います。何よりも始めに皆様のお祈りを感謝いたします。

この夏日本へ行く何週間か前に母からの電話で、目が見えなくなって来ているという事を聞いていました。私が日本に着いた時には、母の視力はほとんどなく、物の形がぼんやりとみえる程度になっていました。着いた二日後に病院の予約が入れてありましたので、母に付き添って行ってきました。

検査の映像を見せてもらうと、やはり眼底出血があり膜のところが腫れていました。お医者様から4種類の治療の説明をうけ、2週間後の予約時までには検討するようと言われました。新薬を使うか、従来の治療にするか、など混乱の中で、神様が一番良い方法を指し示して下さいました。そして御心ならば、癒して下さいました。母に手を置いて祈りました。

こんな祈りをされるのは、母にとって初めての事でしたが、素直に受け入れてくれました。最近母はゲルスタ先生から頂いていた聖書を読みかけていたので、私は神様に、母がまた聖書を読めるようにしてほしいとも、お願いしました。そのとき与えられた御言葉は、『**神には、何でも出来ない事は、ありません。**』ルカ1：37でした。その御言葉を握って子供達と毎日祈りました。

そんなこんなで、2週間がたち、次の検診の時間が近づいて来た頃、母が、何だか新聞がみえるようになって来た気がすると言い出したのです。そして検診の日、もう一度眼底の写真を撮り、お医者様が視られたところ、同一人物の物と思えないくらいきれいに腫れが、退いているとの事でした。こんなことは、まれにしか起こらないと、お医者様も驚いておられました。

その時の感動は、言葉に言い表せないほどでした。鳥肌がたち、心の中で、イエス様！と感謝しました。イエス様は、私たちにはっきりと今も生きて働いておられ、御心に合ったお祈りに答えてくださるという事を見せて下さいました。母にもこれは、偶然の出来事ではなく、イエス様が癒して下さいただ、という事を言い聞かせました。

母もこの不思議を体験して何か心に思う物があつたようです。クリスチャンになるという事、つまり洗礼を受けるという事には、まだ踏み切れませんが、イエス様の御臨在は感じているようです。共に感謝の祈りも捧げ、母の口からもイエス様にありがとうございます、という祈りが出てきました。またもうひとつ大きな出来事は、今回の滞在の間、母は、以前には毎日のように唱えていた般若心経を一度も唱えませんでした。お盆の時ですえも。母の心の中に何か変化が起きています、感じています。

両親の救いを長年祈っていますが、今回の体験を通して神様は神様の時間と方法でご計画を実行されるという事を確信しました。神様の事を時折疑っていた罪を今ここに告白します。主は、すばらしい！

最後まで読んで下さってありがとうございます。これが、私の日本からの土産話です。この土産話が、どなたかの励ましとなる事を願って、こうして分かち合わせていただきます。





1、ゲルスタ牧師の5月末での辞任表明を受けて立ち上げられた8名からなる牧師招聘委員会は、2月24日に第一回委員会を持ち、その後、随時委員会を開き、祈りをもって招聘作業を続けてきました。

第2回の招聘委員会で、2012年2月からスイスJEGで説教のご奉仕をして下さっていたマイヤー牧師が、後任牧師に相応しいとの意見の一致をみて、折衝を続けてきました。招聘に対するマイヤー牧師のポジティブなお答えをいただき、9月8日に臨時総会が開かれ、マイヤー牧師を後任牧師にとの招聘委員会ならびに役員会の提案が圧倒的多数で可決されました。

また、現在の勤務先Haus Bethellにも後任者が与えられたことから、11月1日をもってスイスJEGの主任牧師として教会のお働きを始められます。なお、牧師就任式は、スイスJEG創立20周年記念礼拝の中で、マイヤー牧師のお父上に聖書とドイツ語の薫陶を受けられた田辺正隆牧師の司式のもとに執り行われる予定です。

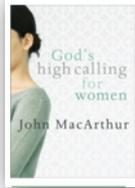
2、9月8日(日)は、ウィーンから10ヶ月ぶりに高木攻一牧師ご夫妻をお迎えして日曜礼拝を守りました。高木牧師は「担い運ぶ神」をテーマにイザヤ書46章1-4節から解き明かして下さいました。前日には、チューリッヒ市近郊フォルケッツヴィルのトムセン家での家庭集会にもご夫妻で奉仕頂き、スイスJEGの姉妹と貴重な交わりと学びの時間が与えられました。翌日は、念願のアップンツェル地方を訪問されました。高木牧師から礼状が届いていますので、ヨーロッパの教会コーナーでお読み下さい。



3、2012年9月23日、スイスJEGで洗礼を受けられた音楽留学生の澤田恵姉は9月30日に本帰国されました。スイスJEGでは9月22日の愛餐会でささやかな歓送会を持ち、姉の日本での信仰生活が守られ、祝福されますよう祈りました。



9月22日、10月13日の愛餐会スナップ



4、スイスJEGの第一回婦人会が、週日の家庭集會に来られない方たちのため、9月1日(日)中央スイス・ベグスで持たれ、John MacArthur著の「God's high calling for women」を日本語に訳したものをを使いながら8名の姉妹で共に学びの時を持ちました。この婦人会は現在のところ、クリスチャンで大人のみを対象とし、不定期、年4回の開催を予定しています。詳細はworkshopswiss@bluewin.chまで。



5、9月15日(日)に、東スイス日本人会(OSN)主催による東北の被災地支援を目的としたチャリティーイベント、第2回JAPANATAGが、東スイス・サンクト・ガーレン市で開かれ、地元民800名を越える来訪者で賑わいました。スイスJEGもブースを出し、会員による墨絵、工芸品、和菓子などを出展し人気を集めました。スイスJEGの売り上げ金1485フランを含む収益金90万円は、低放射線下での暮らしを余儀なくされる福島の子を支援するふくしまHopeプロジェクトwww.fukushimahopeproject.com/、ならびに、オアシスライフ・ケアの支援団体で、津波で全てを失った養殖漁民の復活を支援する石巻市の海友支援隊<http://www.kinka-hoya.com/>へ、松林姉妹によって10月下旬被災地に直接届けられます。このイベントの様子(6分半)はwww.youtube.com/watch?v=ZhJNtQNxkU4でご覧頂けます。

6、「JEG20周年記念特別セミナーのお知らせ」スイスJEG創立20周年記念事業として、2014年1月24日(金)~26(日)に特別セミナーを、アメリカより岡田大輔先生を迎えて開催いたします。JEG主任牧師マイヤー・マルチン先生のセッションもごさいます。会場はドイツのバード・リーベンツェル(Bad Liebenzell) Haus Bethellにて行われます。スイスJEG以外の兄弟姉妹ならびに教職者の皆様も是非この機会を見逃されませんよう、是非ご参加ください。案内状と申込書をNLに添付いたします。ご質問はworkshopswiss@bluewin.chへ。

7、アジア・オセアニア地域に点在する日本語教会のネットワークを助け、キリストの体として互いに強められることを目的とするアジア宣教フォーラム Mission Forum in Asia のホームページが立ち上がりました。<http://asia-mission-forum.blogspot.jp/>なお、昨年ベトナム、インドにも日本語集會が出来つつあり、生きて働かれる主のみ業を見させて頂いています。

8、「百万人の福音」11月号に、今年フォンテーヌブローで開かれた「第30回ヨーロッパ・キリスト者の集い」のレポートが掲載されました。いのちのことは社からお送り戴いたPDFファイルを添付しますのでお読み下さい。

9、オーニングナー宣教師、クンツ・プリシキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ198号、吉村美穂ニュースレター76号、井野葉由美メルマガ103号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、アジア宣教フォーラム、オリーブ山便り(イスラエルよりの最新情報)が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。

日出ずる国より



沢山の人に支えられて

石川県内灘はOM日本の
マルティン祐子姉から

JEGの皆さん、お元気ですか？日本はとても秋らしく気持ちの良い天気が続いています。少しずつですが、新しい生活に慣れてきました。住むところも与えられ、本当に神様に感謝しています。私達の住んでいるところは教会から徒歩5分、OM事務所からは徒歩15分と便利なところで、とてもきれいな遊歩道があります。大通りから事務所に行くとも見えます。



OM日本のメンバーは南アフリカ、香港、イギリス、シンガポール、韓国、オーストラリア、マレーシア、フィリピンと、とても国際的です。4月末に私たちが以前乗っていた口ゴスホープが日本に来る予定なので、私とフィリップのしばらくの目標は船来日のためのホームページやチラシを作成することです。私たちの船での経験やスキルが早速活かせるので、とてもいいタイミングで遣わされたなあ、と思います。

本当にたくさんの人たちに支えられ、助けられ、ゆっくりですが、こちらの生活を始めることができました。お祈りを感謝します。JEGのことも覚えて続けてお祈りします。まだまだ分からないことや困難も沢山ありますが、神様に信頼して、喜びを持って日々奉仕することができたら、と思います。

米国の”キリスト者の集い”を巡る 証の旅へ

東京は江戸川区の
小岩栄光キリスト教会の
野村和子姉から



愛するスイス日本語福音教会の皆様へ

いつも内容の豊かなニュースレターを送ってくださり有り難うございます。大きな興味を持って毎号愛読させていただいています。また、この度

は、スイス教会のニュースレター編集部の御奉仕による「ヨーロッパ・キリスト者の集い」の証/感想文集をお送りくださり誠にありがとうございました。

今年で30回目を迎えた「集い」の証/感想文集を拝読し、今回もたくさんの恵みのうちに閉会したことを知りました。私はレポーター役を果たせず申し訳ありませんでした。感想文集の最後に、松林兄が的確なレポートを書いてくださり、これ以上のものはないという実感を覚えた次第です。

私のほうは、三上洋輔兄（在デトロイト）の手厚いご配慮をいただき、8月14日から26日まで、アメリカ（ミシガン・バイブルキャンプ、デトロイト、シカゴ）カナダ（トロント）の6箇所で、安部哲兄の信仰と伝道について証をさせていただきました。

3泊4日の第16回ミシガン・バイブルキャンプは、州外の近隣各州からも家族連れなど50名ほどが参加。「ヨハネ15：9 私の愛の中にとどまりなさい」をテーマに、メイン講師の生方義憲先生を始め、ミシガン州の神学校留学中の先生方からメッセージをいただきました。テキサス州から昼夜21時間、交代で車を運転して参加されたご夫婦は、1ヵ月後の9月29日に洗礼を受けました！



ミシガン・バイブルキャンプ

イエス様の愛に捉えられ、この愛にとどまり続けた安部兄の歩みを知ったある姉妹は、「信仰は、生ける神様との愛の関係に生きることなのだ分かりました」という意味のことをおっしゃってくださいました。それまではきっと苦しい信仰生活だっ

たのでしょね。家庭集会に来られたノンクリスチャンの男性は、「安部さんの伝記は面白い」と言って読み始めてくださり、続けて集会に参加したいとおっしゃっていたそうです。オカルトにとらわれていたようですが、「放火魔」・安部さんの信仰の火が、彼をイエス様に近づけるきっかけになることを祈ります。

トロントでは、岩井正一・曜子兄妹が集会のチラシを作って市内の日本人教会3箇所に呼びかけてくださいました。30年余りにトロントで安部兄の証しを聞いたという方も来られ、安部兄の伝道足跡の広がりをあらためて実感しました。

シカゴのVIP集会では、参加20名の中で、在米数十年という方々が多いことにも驚きました。正木茂先生が定期的にご奉仕したことのあるセント・マシュー教会（デトロイト）も訪問し、現地日本人未信者に対する18年前からの教会のケアには頭が下がる思いでした。



ミシガンでの礼拝堂と宿舎

コーナーストーン福音自由教会（シカゴ）では、礼拝前に、同一聖書箇所から受けた恵みを互いに分かち合う学びに参加させていただきました。ジャパニーズミッション教会（シカゴ）では、教会員やボランティアの方々による手作りの会堂建設が進行中でした。牧師・小針勇吾先生は、安部兄がアメリカ西海岸の日本人教会にも証に回られたことをご存知でした。来年は西海岸の日本人教会を回って、安部兄の証をするように導かれている気がいたします。安部兄の信仰と伝道が、これまで以上にさまざまな方を通して語り伝えられていくのを実感しました。主のなさるみわざにこれからも期待いたします。

時差ぼけで睡眠不足の中、教会や家庭集会へと、車で往復数時間走る日々でしたが、皆さんのお祈りのおかげで、不思議なほど疲れませんでした。初対面の兄妹宅に泊めていただき、温かいご配慮をいただいたことも感謝いたします。私の留守中、子供たちが交代で来て糖尿病を持つ主人を気遣ってくれて、酷暑の中でしたが主人の健康も守られました。

季節の変わり目になりますので、どうぞ体調にはお気をつけてお過ごし下さい。いつか再会の時を期して、まずはお礼とご報告まで。



ヨーロッパの 日本語教(集)会から

キリストのみ体として

オーストリアはウィーン日本語教会の
高木攻一牧師から



スイスJEGの皆様へ
主の御名を賛美いたします。

この度の貴教会での奉仕に際しましては、その前後の種々なるきめ細やかなご配慮に心から御礼申し上げます。

ゲルスタ師の退かれた無牧状態にあっても皆様、キリストのみ身体としての教会の機能をいかに発揮されて、それぞれの持ち場の責任を分担して実に円滑に運営されておられる有様に心を打たれました。新規にドイツよりの牧師を迎えられ、より一層の教会立て挙げが進められる事を期待して祈ります。

また、念願のアッペンツェルにお住まいの松林兄夫妻宅にお招きいただき、兄弟の絵画作品からも想像はしておりましたが、何と素晴らしいスイスの田園であろうかと家内と歓声を挙げたものです。主は天候まで祝福くださり、一時は駄目かと諦めかけていましたが、快晴の青空の下に広く高く広がる天地を感慨深く観察させていただきました。

最後に提供くださった和食の手料理にはただただ驚嘆するばかりです。兄弟御夫妻のお心も才覚も実にきめ細かく絶妙のバ



ランス感覚を備えられておられ、生きることの豊かさを満喫されておられること、羨ましくさえ思われた次第であります。今や人生の新しいコーナーを回られ、いよいよ充実した仕上げへと主にあって向われますよう祈ります。

主にあり、感謝と御礼まで



新著「折られた花」 について

オランダ日本語聖書教会は
村岡崇光兄から



8月9日、敗戦記念号として出た「週刊金曜日」に寄稿を頼まれて掲載された記事を皆さんと分かち合いたく思います。

去る5月にジュネーブで行われた国連人権委員会でも日本に対して明確な勧告が出された問題に関係します。昨年の半ば以来ぎくしゃくしている韓国との関係の主たる原因のひとつです。

日本の教会は太平洋戦争に全面的に加担しましたから、その戦争の残滓のひとつであるこの問題には責任がありますし、戦後70年未だに悔い改めようとしない日本政府をおかた支持してきた現在の日本の教会にも責任がある、と思います。

この問題については既に日本語で何冊か出ていますが、キリスト教関係出版社から出るのは本書が初めてで、その意味でもわれわれには意義深い出来事ではないでしょうか。この問題を真剣に受けとめ、然るべき行動をとることも「信仰の原点を求めて」のひとつのあり方でしょう。

8月15日を目前に控えて、近日中に新教出版社より出版予定の「折られた花」(サブタイトル:日本軍「慰安婦」とされたオランダ人女性たちの声、訳者:村岡崇光)を紹介した



い。著者マルゲリート・ハーマーさんは、元村山首相の発意によって立ち上げられた「アジア女性基金」が提供した資金の運営を引き受けたオランダの委員会の議長を務め、太平洋戦争中インドネシアで日本軍兵士の性暴力の犠牲となった女性達に暖かく接し、彼女達の悲惨な体験とその後の人生における辛酸にまつわる話を親身になって聴き、8人の女性達の承諾を得て彼女等の証言を本書にまとめられたのである。

著者は昭和18年にインドネシアに生まれ、母親と一緒に、当時日本軍がインドネシア各地に設定した婦女子用のキャンプに強制的に抑留され、終戦までの2年半の言語に絶する苦難の日々を送られた。父親は「死の鉄道」として悪名高い泰緬鉄道建設に日本軍によって使役され、幸いにも生き延び、家族と再会、オランダへ引き揚げはされたものの、死ぬまで日本に対して激しい怒りを忘れることができなかった。

この委員長の仕事を引き受ける時も、著者は日本をあんなに憎んでいた両親を裏切るような複雑な気持ちだった。また、アジア女性基金成立の経緯、日本国民を代表する国会の正式の謝罪もなく、被害者が法的に当然要求してもよい補償金もない等、不満もあったが、村山首相の善意を最大限に汲んで、戦後半世紀経ってもなお、精神的のみならず、経済的にも苦勞している女性達のためにこの任務を引き受けられた。

人間の尊厳は、いつ、いつこにあっても尊重されるような世界であって欲しい、という8人の女性達の心底からの願いに著者は深く共感して、生まれて初めての著作に挑まれたのである。

訳者は2008年、梶村、糟谷氏と共著で、同じくインドネシアで犠牲となったオランダ人女性についての裁判記録『慰安婦』強制連行』を週刊金曜日出版してもらった。

村岡崇光兄が「福音と世界」に執筆されたレポート”過去なくして現在なく、未来もない”(pdfファイル)10ページをお読みになりたい方は、村岡崇光兄<muraoka@planet.nl>あるいはスイスJEGに請求くだされば送付いたします。

9月22日(日)にパリ・プロテスタント日本語キリスト教会での、佐藤彰牧師(福島第一バプテスト教会)のメッセージが、仏語通訳付きでお聴き頂けます。下をクリックして、初めから45分ぐらいまでスキップしてご覧下さい。www.livestream.com/templummarais/video?clipId=pla_5120cb31-4eb3-46f0-ba93-96a7411a437b&utm_source=library&utm_medium=ui-thumb